

令和7年度幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

令和8年3月30日

社会福祉法人親和会末広認定こども園

評価項目	取組状況
乳児期の園児の保育	一人ひとりの生活リズム（食事・睡眠・排泄）を尊重し、家庭との連携を図った。0歳児新入園児の慣らし保育では保護者に一緒に過ごしてもらい、お子様の状況を把握する機会とした。安心感をもって心地よく過ごすことができた。今後も発達や体調等個々の育ちに応じた環境作りを行っていききたい。
満1歳以上 満3歳未満の園児	子どもの発達に合わせて、自分でしようとする気持ちや、子どもの言葉や表情、動作を丁寧に受け止めた関わりを行っている。やりたい気持ちから動作も大きくなり、安全に配慮した保育環境の見直しを行った。
満3歳以上の園児の 教育及び保育	生活環境の変化のため保護者に協力していただき、安定・安心に努めた。保育教諭との信頼関係の中で友達との関係も広がり、友達と育ちあう教育保育を継続していく。
教育及び保育の実践に 関わる配慮事項	成育歴のちがいに留意し、一人ひとりに合わせた配慮を心掛けた。担任保育教諭をはじめ看護師、栄養士、他の職種とも連携を取り、個別に応じた援助を行っている。
健康及び安全	安全対策についてヒヤリハットを職員間の共有とし重大事故防止に努めた。暑さ対策に配慮し、水分補給や園庭での過ごし方など工夫をして過ごした。 感染症対策がまだまだ必要で在り、保護者への周知が弱かった。災害時に備えた「避難訓練」を毎月行っているが、新たな想定が必要となっている。
子育て支援	地域の子ども対象の地域開放は予約の必要性もなく、毎回多くの利用者がいる。看護師による身体計測など心待ちにされている姿がある。併設の地域子育て支援センターでは多世代の方との交流もあり、内容も広がっている。他機関との連携をしながら活動を見直していききたい。
職員の質の向上	保育内容の振り返りを大切に、子どもの最善の利益のため職員一人ひとりが専門性や課題に応じた知識や技量を身につける研修受講を今後も継続し、職員間の共有としていききたい。
まとめ	保育内容については職員が意識して取り組んでいる。職員のチームワークの構築やコミュニケーション不足にならないよう環境見直しをする。在園児、地域の子どもたちの最善の教育保育を提供できるよう努める。